

# DYNAMIS

NANZAN UNIVERSITY LIBRARY BULLETIN

## 自分探しの空間としての図書館



### CONTENTS

自分探しの空間としての図書館 —図書館長の言葉…1

学部長おすすめの本…1-2

学外書庫を活用しよう!…4

図書委員の先生より…7

2018年度秋の企画展報告…3-4

活動レポート…5-6

新入生歓迎企画展のお知らせ…7

図書館長の言葉

MESSAGE FROM THE DIRECTOR

今から三十数年前、私は初めての海外留学をドイツのチュービンゲン大学で経験した。古色蒼然とした重厚な建物の大学図書館にも時々通ったが、普段はガラス張りの新しい建物の学部図書館で過ごした。その館内では書架のほとんどが胸元くらいの高さで、そのため各階共、窓際まで見通すことができ開放感に溢れていた。これには理由があり、書架の上に複数の本を広げたまま移動しながら、立ったまま読み書きができるのである。かの文豪ゲーテが立ったまま歩きながら仕事をしたというのを聞き、自分もゲーテになりきって立ったまま研究に没頭した。



勉強に疲れると、館内の Liegewiese と呼ばれる絨毯張りの低い台に寝そべて寛いだ。その一角の自動販売機には、同じ飲み物に二つのボタンがあって異なる料金が設定されていた。これは、マイカップ持参で「紙コップ無し」を選ぶと安く飲み物が買える仕組みで、さすが環境先進国ドイツだと感心し、私も持参のカップでコーヒーを飲みながら、環境保護に貢献するエコロジストになったつもりでいた。

ドイツでは図書館で学ぶ男子学生の多くが立派な髭を生やしていたので、年下の学生でも年長者に見えた。

加えて、大学図書館内には立派な髭を蓄えた歴代館長の肖像画が飾ってあった。それらに刺激され、私も意を決して髭を伸ばした。髭面でドイツ語を話していると、まるで自分がドイツ人になれたかのような錯覚に捕らわれた。(実際には誰も髭面の私をドイツ人も日本人とも見なしてはいなかったのだが。) その後、髭を生やしたことを後悔するような衝撃的経験や、自分の専攻は独文学ではなくキリスト教学だと再決断を迫られる運命的経験をしたのも図書館でのことだった。その意味で、図書館は「自分探し」の特別な空間だった。館長を務めるようになり、ドイツの図書館に並んでいた髭面の歴代館長の肖像画を思い出し、新たな「自分探し」のために再び髭を生やしてみようかとの思いに駆られている。

図書館長 山田 望

総合政策学部総合政策学科教授。南山大学大学院文学研究科神学専攻博士後期課程 修了。専門分野はキリスト教教理史、教父学、キリスト教古代史、古代ローマ史、西洋古代思想。キリスト教史学会理事。



学部長おすすめの本

MY BOOK REVIEW



人文学部長 青柳 宏

『方法序説』

デカルト[著]；谷川多佳子訳  
岩波書店, 1997 (岩波文庫 青 (33) ; 613-1)  
請求記号 081K || 242-1 || v.0-571 ほか

学部4年で専攻を言語学に決めたころ本書に挑む。う〜ん、難しい。徹底的に疑うことからしか学問は始まらないこと、確実な前提を基にした推論の重要性はなんとか理解。だが、チョムスキーがなぜ自らを「デカルト派」と称したのかはずっとあと。曰く、我悩む、ゆえに我あり。



外国語学部長 牛田 千鶴

『マックス・ヴェーバー入門』

山之内靖[著]  
岩波書店, 1997(岩波新書・新赤版 ; 503)  
請求記号 081K || 2356-3 || v.503

近代社会学の父祖のひとり、ヴェーバーに関する入門書です。「入門」と銘打ちながらも、通説を覆さんとする著者の気概を感じさせる刺激的な研究書でもあります。

社会科学や地域研究を志す学生の皆さんには是非一読を薦めたい一冊です。





経済学部長 林 順子

### 『文明としての江戸システム』

鬼頭宏[著]

講談社, 2010(講談社学術文庫:[1919]. 日本の歴史:19).  
請求記号 081K || 2418 || v.0-1367-20

江戸後期の日本は、“鎖国”という制限の中、西欧とは違う形で成熟し、その後の近代化へ繋げました。本書は、成熟社会を育んだ魅力的な江戸システムを多角的に描き出します。同じく人口や資源などの限界を抱えて将来像を模索する今こそ読んで欲しい1冊。



経営学部長 安田 忍

### 『ど真剣に生きる』

稲盛和夫[著]

日本放送出版協会, 2010(生活人新書, 327)  
請求記号 335.2K || 1410

2006年のNHK教育テレビ番組「知るを楽しむ・人生の歩き方」の新書本です。京セラ創設者稲盛氏が自らの経験を通じて「リーダーの条件」「挫折だらけの青春」「会社は誰のものか」「何のために生きるのか」を語り、その中に経営に対する姿勢や人生観が示されています。



法学部長 伊藤 司

### 『私法の道しるべ』

我妻榮[著]

第2版/川井健補訂 勁草書房, 2013(民法案内; 1).  
請求記号 324 || 1432 || A

我妻榮(1897-1973)は、『民法講義』(岩波書店)シリーズを通じて民法の「通説」を形成した。

本書は民法を中心とした私法一般について、その勉強方法・内容の概観・解釈方法などがわかりやすく記されている。



総合政策学部長 藤本 潔

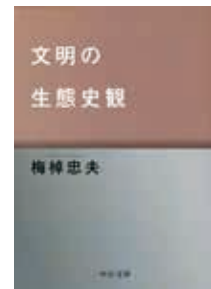
### 『文明の生態史観』

梅棹忠夫[著]

改版/中央公論社, 1998(中公文庫)  
請求記号 081K || 2404 || v.0-63 || A

本書は1957年に発表された著者の論考を文庫本化したもの。日本と西ヨーロッパを第一地域、その間の大陸部を第二地域とし、生態学の遷移の概念を援用し、両者の歴史と文明の相違を説明した。

文明論を基礎とする総合政策学部生に一読を勧めたい書である。



理工学部長 大石 泰章

### 『若き数学者のアメリカ』

藤原正彦[著]

改版/新潮社, 2003(新潮文庫, 2738 ; ぶ-12-1)  
請求記号 081K || 2367-2 || v.0-101

学生時代というのは何とも不安でよるべない時代だと思う。何にでもなれるが、まだ何者でもない。私にもかつてそんな時代があり、その中でこの本を読んだ。その結果、アメリカに行きたくてたまらなくなり、そして行った。

わずか1年ではあったが、そのときの経験と思いが、まっすぐに今の私につながっていると思う。不安でよるべない日々の中でも、着実にその後の生き方の核が作られている。そんなかけがえのない学生時代を生きる皆さんに、この本が刺激となれば幸いである。



国際教養学部長 斎藤 衛

### 『自由からの逃走』

エーリッヒ・フロム [著] ; 日高六郎訳

新版/東京創元社, 1965(現代社会科学叢書)  
請求記号 308K || 12 || v.0-13 || B ほか

西洋文明の頂点を極めていたドイツで、なぜナチ党が政権を掌握することができたのか。本書は、「自由」に関する心理的現象がファシズム台頭の温床となったことを指摘します。束縛がないことは、人間らしく生きることと同義ではなく、それを可能にするものであることを論じた名著です。







# 図書館から冒険の旅へ

～物語を鮮やかにする世界遺産～

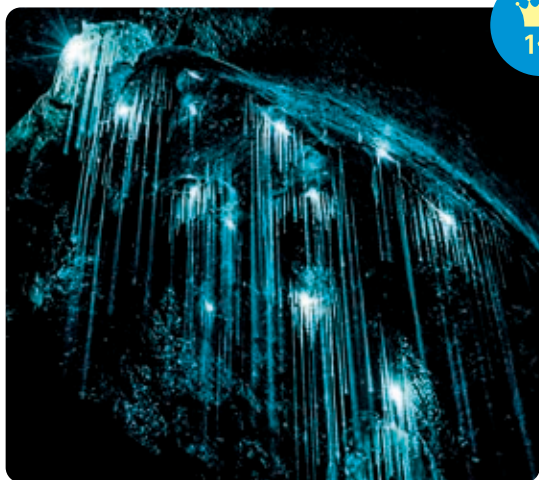
2018年10月15日(月)～28日(日)開催

図書館では、毎年春と秋に企画展を開催していることをご存知ですか？

2018年秋の企画展では「文学や映画作品にまつわる世界遺産」を紹介しました。

参加型企画として、春の企画展で好評だった人気投票を実施し、みなさんが「興味をもった世界遺産」を選出。

気になる投票結果第1位は、同率でこの2つでした！



1位

## Australia オーストラリアの ゴンドワナ雨林

オーストラリアのクィーンズランド州からニューサウスウェールズ州にまたがるこの地には数億年前から進化しないままの動植物が生息しており、自然保護地域に指定されています。「ゴンドワナ」とは太古の時代に存在していたと考えられる超大陸。その大陸が分裂して現在のオーストラリア大陸ができたと言われていています。この地域の雨林群のひとつ、スプリングブルック国立公園のナチュラルブリッジの洞窟では、『天空の城ラピュタ』に登場する「飛行石」のモチーフになったといわれる「土ボタル」(ヒカリキノコバエの幼虫)が輝く姿を見ることができます。

## ドヴロヴニク旧市街 (クロアチア)

ドヴロヴニクは、クロアチア南部のアドリア海に面した都市。堅固な城壁に囲まれた旧市街には、後期ゴシック、ルネサンスの両様式を取り入れた歴史的建造物が多く残されており、「アドリア海の真珠」と称えられるほどの美しい景観です。ジブリ映画、『紅の豚』や『魔女の宅急便』の舞台になった街とも言われており、確かに、真っ青なアドリア海と旧市街の赤い屋根を見ていると、「紅の豚」の主人公・ポルコがセスナ機に乗って街の上空を飛び回るシーンが思い出されます。

1位





## カトリック文庫講座との タイアップ企画!



2018年7月に世界遺産に登録されたばかりの「**長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産**」についても紹介しました。

こちらはカトリック文庫講座「潜伏キリシタンからカトリック教徒への復活—『御水帳』にみられる日本人信徒指導者の役割とその変容—」とのタイアップ企画です。様々な角度から楽しんでもらうことができ、大人気コーナーの1つになりました。

好評により、次回の秋の企画展(11月下旬予定)もカトリック文庫講座とタイアップしてカタコンベなどの地下世界を中心に紹介します。

「カタコンベ」って知ってる?



あ〜それはね、初期キリスト教時代の地下墓所のことだよ。キリスト教徒が死者を葬り、迫害時代には礼拝や集会のために集まっていたんだって。今は巡礼所になっているみたいだよ。



<モアイのつぶやき>図書館のどこかにいるぼくたちのこと探してみてね!

未知の地下世界に遊びにきませんか?  
図書館でお待ちしています!

図書館の達人になる!



学外書庫 を活用しよう!



図書館の資料は「学外書庫」にも保管されてるって知ってた?

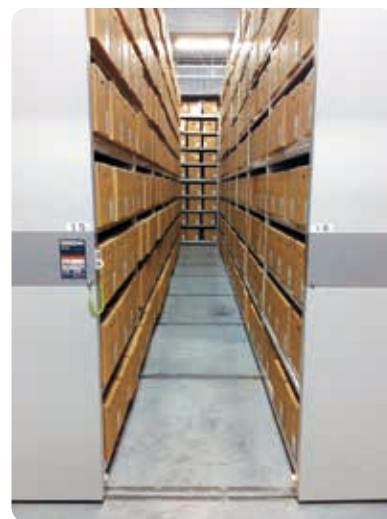
へーそうなんだ。じゃあ学外書庫について図書館の人に聞いてみよう!



「学外書庫」は学外にある地上6階建ての巨大な倉庫の一部を借りて、図書館の資料を保管しているところです。資料は段ボール箱に詰められ、棚一面に整然と並べられています。夜間は、赤外線と360°カメラで厳重に警備されていて、ネズミ1匹、内に入ることはいけません。万一、火災が発生しても水による消火活動ができないため、窒素ガスによる消火を行うなど、万全なセキュリティで資料が保管されています。

その段ボール箱の中で資料たちは、みなさんがOPACから「予約」ボタンを押して取り寄せしてくれるのを静かに待っているのです。

なお、学外書庫資料の使い方は「デュナミス No.73, 2018/4/1発行(図書館Webページ掲載)」で紹介していますので、そちらを確認してみてください。





# 本の魅力、再発見!

## CANブックパーティー開催!

2018年9月22日(土) @愛知学院大学図書館情報センター



### CANブックパーティーとは?

できることをできるところから「CAN」をキャッチフレーズに、中部大学(C)、愛知学院大学(A) 南山大学(N)の3大学の図書館が共通の目的や利益を達成するために共同で活動を行っています。2018年度には初の試みとして、3大学の学生によるブックパーティーが開催されました。ビブリアバトルのようなプレゼンや投票はありません。それぞれがお薦めの本を持ち寄って、おしゃべりしながら紹介しあうとても楽しい集いです。南山大学からは3名が参加しました!



『どうぶつ友情辞典』を紹介します。飼育員さんの目線から語られていて面白く、エッセイを読んでいるみたいでとても読みやすい本です。

#### 皿澤 佳苗【ブックパーティーに参加して】

小さい時から、こんな本が大好きでした。本好きのみんな、特に動物好きの人に是非読んでほしいです。大好きな本のことを学校や学年の垣根を越えてみんなと話せて、とっても楽しかったです。フランクな雰囲気が良かったです。



言わずと知れた川端康成の名著『雪国』を紹介します。むかしの作品はあまり読んでいたことはなかったし、僕たちの世代はあまりこのような文学作品を読む機会がないのであえて選びました。

#### 石田 裕真【ブックパーティーに参加して】

いろいろなジャンルの本が紹介されて大変面白かった。時間があれば今までに読んでいない分野の本も、もっとたくさん読んでみたいと思った。思っていたより緊張せず楽しく話し合うことができとてもよかった。これからもこういう機会があれば参加したいです。学校でもあるといいのに!

#### VILLACORTA Jonathan Ray Oliveros

##### 【ブックパーティーに参加して】

今は大学院の勉強が大変忙しく本を読む機会がなかなかないのですが、思い切って参加してよかったです。リフレッシュすることができました。じっくり本を読む機会をまた持ちたいなと思いました。

『この永遠なるもの』を紹介します。対話形式なので難しそうな哲学の話でもこの本なら読めそうだなと思い選びました。





佐藤 健多

# そこに本があるから。

大学コンソーシアムせと 図書館連携プロジェクト  
**ビブリオバトル2018**

2018年11月18日(日) @瀬戸市市立図書館

## 好奇心全開!

### ドキドキ、わくわくがとまらない!

ビブリオバトルは、ゲーム感覚を取り入れたスタイルの「書評合戦」です。発表者(バトラー)が読んで面白かった本を5分間で紹介し、各発表の後、参加者全員でディスカッションをします。全員の発表が終わった後に「どの本が一番よみたくなったか」を基準とした投票を行い、一番多くの票を集めた本を「チャンプ本」とします。南山大学からはバトラーとして1名、運営委員として2名が参加しました!

今回ブックパーティーに参加した南山大学チームの3名。最初は少し緊張するかなと思ったけれど、とてもなごやかな雰囲気ですぐに緊張はとれました。



ますます本が好きになって、たくさんの人と本について語りたい! たくさんの人とこの感動を分かち合いたい! やっぱり本が好き!! という気持ちを再確認した時間でした。楽しい時間はあっという間に過ぎていきます。次の機会が待ち遠しい……。

# 図書館で業務体験

## 図書館研修生

図書館では司書課程・学校図書館司書教諭課程受講生を対象に図書館の実務を体験してもらう「図書館研修生」を春と秋の2回募集しています。2018年秋には返本作業や掲示板・小冊子の作成などの広報活動を行いました。



### 浅井 亮子【図書館研修を体験して】

図書館研修生として活動したことで、司書課程の授業だけでは分からなかった発見が多くありました。返本作業の後には、「棚読み」という、その日に決められた分の本棚の本が、正しい場所に収まっているかどうか、確認する作業を行います。

これは地道な作業ですが、本が行方不明にならないためにとっても重要です。

図書館員の細やかな仕事で図書館を成り立たせていることを実感し、図書館の仕事のやりがいも感じる事が出来ました。



**ブックパーティー、ビブリオバトルの  
開催や図書館研修生の  
募集については、  
図書館内の掲示でお知らせします。  
皆さんの参加を  
お待ちしております!!**



「留学を考えているみなさんへ」

南山大学は、伝統的にその国際色の豊かさを高く評価されてきたが、今後も、より多くの外国人留学生を迎え入れると同時に、より多くの学生を日本から諸外国へと送り出すことになるだろう。そして、留学先で学生は、語学に磨きをかけるのはもちろんのこと、様々な場所を訪れ、多くの人々と出会い、その国特有の慣習や文化に触れる機会に恵まれることだろう。異国の地における様々な経験は、学生にとって大きな成長の糧となるに違いない。さらに、そうした経験をただのエピソードとして終わらせるのではなく、日本との文化的な違いをより深く理解するための素材として活かそうと思うのであれば、歴史を学ぶのが良いだろう。なぜなら、慣習や文化は決して所与のものではなく、その国における歴史的営為の産物だからである。

こうした観点から、とくにイギリス留学を考えている学生諸氏に勧めておきたい書籍が、Mark Clapson, *The Routledge Companion to Britain in the Twentieth Century* (2009) である。本書は、歴史の基礎的な内容を網羅したいわゆる概説書ではなく、イギリス近現代史を学んでいる人、あるいはこれから学ぼうとしている人のために、歴史研究の多様な分析視角や歴史研究への取り組み方などを紹介した手引書である。よって、本書はただ読むだけではなく、これを手掛かりとして実践に移してこそ、その意義を最大限発揮できるものである。そして、本書を特に勧める最大の理由は、様々な歴史資料、とりわけ一次資料(歴史の原典資料)へのアクセス方法が紹介されているということにある。

もちろん、学生(学部生)が歴史の勉強をするにあたっては、通常は公刊されている歴史書や歴史論文を読むだけで充分であり、現地の公文書館や図書館に赴き一次資料にあたるということまでは必要ないのかもしれない。しかし、歴史書や歴史論文には、各々の筆者の価値観や歴史観が反映されており、同じ時代の同じテーマを扱った作品同士であっても、いかなる一次資料が利用され、それがいかに解釈されているのかという点において、一致を見ないことも少なくない。それゆえに、自分自身の手で一次資料に触れ、自分なりの解釈を試み、歴史書や歴史論文における解釈と対比してみることで、歴史に対する理解は格段に深まるはずである。

ただし実際には、一次資料を手にとってみても、その内容を理解するのは決して容易なことではなく、歴史的知識に自信のある学生ですら途方に暮れることもあるだろう。だがそういう時にこそ、ホストファミリーや、現地で知り合った先生、友人に相談し、歴史談義に興じてみるのも悪くないのではないだろうか。

経済学部講師 梅垣宏嗣

南山大学図書館【新入生歓迎企画展】

「ようこそ 南山大学図書館へ」  
～新入生のための図書館案内～

2019年4月1日(月)～14日(日)  
図書館1F<ブラウジングコーナー>

